会　議　録

会議の名称	第３回　第４期白岡市教育振興基本計画策定委員会
開　催　日	令和８年９月２４日（木）
開催時間	午後２時　から　午後４時４０分　まで
開催場所	市役所大山庁舎　１階　大会議室
出席者（出席委員）の氏名・出席者数	石井　宏明、青木　春乃、増田　陽一、明野　真久、板垣　時夫、 増田　政史、秋道　明子、渡邉　亜希子　　出席者：　８名
欠席者（欠席委員）の氏名・欠席者数	なし　　欠席者：　０名
説明員の職・氏名	教育総務課主任　松本　崇希、教育指導課指導主事 佐井 純一郎、教育指導課指導主事 眞中 拓美、生涯学習課課長補佐 島村 哲也、生涯学習課主査 平山 雅基、生涯学習課主査 清水 一貴、魅力ある学校づくり推進室主査 相子 純一
事務局職員の職・氏名	教育長　横松　伸二、教育総務課長　高澤　憲司、 教育総務課主幹　神田　晶子、教育総務課　松本　崇希
その他会議出席者の職・氏名	教育指導課長 増村 歩、教育指導課指導主事 佐井 純一郎、教育指導課指導主事 眞中 拓美、生涯学習課長 岩楯 浩志、生涯学習課課長補佐 島村 哲也、生涯学習課主査 平山 雅基、生涯学習課主査 清水 一貴、魅力ある学校づくり推進室長 齊藤 健、魅力ある学校づくり推進室主査 相子 純一、株式会社社会構想研究所 森 すぐる
傍聴者数	１人
会議次第	別添のとおり
配布資料等	資料１　第４期白岡市教育振興基本計画の素案について 資料２　第４期白岡市教育振興基本計画の今後の策定スケジュールについて 参考資料　主な変更点一覧

発　言　者	議 題 ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
	１　開会
事務局	第３回第４期白岡市教育振興基本計画策定委員会の開会を宣言した。
	２　挨拶
横松教育長	第４期白岡市教育振興基本計画策定委員会への出席に対し、謝意を表す。
事務局	委員８名の出席により、会議が成立していることを報告した。
	３　会議内容
	（１）第４期白岡市教育振興基本計画の素案について
石井委員長	事務局から説明をお願いいたします。
事務局	資料１に基づき、第１章から第３章について説明した。
Ｒ委員	「誰一人取り残されることなく」という考え方は、基本理念や課題には示されていますが、施策目標２「学校教育の充実」にも明記してはどうでしょうか。「一人一人」や「多様なニーズ」などの表現はありますが、学校教育の基本となる考え方として、あえて記載することで、より明確に伝わると思います。
事務局	御意見を踏まえ、検討します。
Ｈ委員	施策目標３の最後に「豊かな文化を享受できるまちの実現を目指します」とあります。基本理念の副題を「文化」から「学び」に変更し、「学び」を重視するのであれば、ここも「豊かな学び」としてはどうでしょうか。
事務局	御意見を踏まえ、検討します。
Ｒ委員	先ほど、生涯にわたって学び続けられるまちを目指すという説明がありました。その思いを表すため、施策目標３にも「いつでも・どこでも・だれでも学び続けることができる」など、学びの継続性を示す文言を加えてはどうでしょうか。家庭から学校、そして社会へと学びがつながっていくことが伝わると思います。
事務局	御意見を踏まえて内容を修正し、改めてお示しします。

石井委員長	基本理念の副題の「学びを育む」という表現が適切か、改めて検討していただきたいと思います。長く残る大切な文言ですので、本日ここで決定するのではなく、事務局で再度検討をお願いします。
Ｋ委員	今回の計画にも用語解説が付くと思います。この計画でいう「学び」は、従来考えられてきたものよりも幅広い意味で使われていますので、先ほどの説明のような内容を用語解説に明記していただきたいと思います。
事務局	今回も用語解説を設ける予定ですので、「学び」についても追加できるよう整理します。
事務局	資料１に基づき、第４章について説明した。また、各取組に記載した「主担当」及び「関係課」は、実施主体等を示すためのものであり、計画書として取りまとめる際には削除する予定である旨を説明した。
Ｄ委員	２６ページの子どもの体験的な学習では、動画配信の記載を削除したのは、実際に体を使って体験することを大切にする趣旨だと理解しました。一方、２４ページの家庭教育学級でも、動画配信形式での開催を検討するという記載が削除されています。 私自身、ＰＴＡで家庭教育学級を主催した経験がありますが、役員以外の保護者に参加していただくことは難しく、仕事などで時間を取れない方もいます。大人に幅広く情報を届けるためには、一定期間、都合の良い時間に講座を視聴できるオンデマンド配信が有効だと思います。著作権などの課題はあると思いますが、家庭の教育力の向上に向けて導入を検討していただきたいと思います。
事務局	御意見を踏まえ、具体的な実施方法を検討します。動画配信の記載を削除したのは、動画に限定せず、幅広い方法で実施していきたいという趣旨です。
Ｄ委員	「実施方法を検討し」という表現には、対面、同時配信、オンデマンド配信や文字による情報提供なども含み、動画に限定しない、より幅広い表現にしたという理解でよいでしょうか。

事務局	お見込みのとおりです。動画配信だけでなく、様々な方法を含めて実施方法を考えるという趣旨です。
Ｋ委員	２４ページの「家庭教育や子育てに関する情報を提供できるよう努めます」は、「提供に努めます」と修正してはどうでしょうか。その方が、取組を進める姿勢が明確になると思います。
事務局	御意見を踏まえて修正し、改めてお示しします。
石井委員長	同じ箇所の「開催時期、実施方法を検討し」も、基本計画の文言としては、「開催時期、実施方法を工夫し」などの表現がよいのではないでしょうか。併せて検討をお願いします。
Ｗ委員	２６ページの施策項目にある「家庭・地域・学校と連携して子どもたちを育てる」の「と」は、市が家庭・地域・学校と連携するという意味でしょうか。３４ページの「家庭・地域・学校が一体となった」という表現との違いについて、説明をお願いします。
事務局	本文では「家庭・地域・学校が連携し」と記載しています。見出しについても、「が」などを用いて、より分かりやすい表現に修正したいと考えています。
Ｒ委員	成果指標が一部の取組にのみ設定されていますが、なぜその指標を選んだのかが分かりにくいと感じます。例えば、家庭教育アドバイザーの育成については、現在の人数や今後の拡大、家庭への支援にどうつなげるかなども知りたいところです。数値化が難しい取組もあると思いますが、指標を選定した考え方や、指標を設定しない理由について、説明を補ってはどうでしょうか。 また、現状値の年度が令和７年度と令和８年度に分かれています。計画策定時に数値がそろわないのであれば、令和７年度に統一するなどの考え方もあると思いますが、年度が異なる理由を教えてください。 現状値から令和１３年度の目標値までの間についても、途中の目標や評価の仕方が示されていないことが気になります。毎年度振り返ると思いますが、市民が計画を見たときに、どのように進めていくのかが分かるよう、考え方を示す必要があると思います。

事務局	成果指標は、全ての取組に設定するのではなく、各施策の成果を継続的に把握できる代表的なものを選んでいます。今後の方向性を踏まえ、成果の把握に適した指標がほかにあれば、設定の必要性や目標値の設定方法を担当課と確認し、追加を検討します。 各取組の実施状況は、成果指標だけでなく、毎年度の点検・評価でも確認しています。現状値の年度については、計画策定時に令和８年度のデータが得られないものもあり、指標によって異なっています。改めて整理し、お示しします。
石井委員長	現状値と目標値の間に中間の目標値を示す予定はなく、毎年度の振り返りで確認するということでしょうか。
事務局	お見込みのとおりです。毎年度の状況は点検・評価で確認し、計画には中間の目標値を掲載しない考えです。
Ｋ委員	私は点検・評価委員を務めています。計画の成果指標に表れていない細かな取組についても、４８ページの「計画の点検・評価」にあるとおり、担当課から年度ごとの目標や成果を確認し、毎年度評価を行っています。年度ごとの状況は、その評価結果で確認できます。
Ｒ委員	年度ごとの評価は確認できますが、この計画には令和１３年度の目標値のみを示し、途中の目標値や段階的な目安は示さないということでしょうか。
事務局	点検・評価の結果は、毎年度ホームページで公表しています。例えば、２５ページの講座への参加者数は、現状の４６２人に対し、５年間で６００人を目指すという設定です。毎年度、取組や参加者数の状況を確認しながら、最終的な目標の達成を目指すもので、中間の目標値は設定していません。
石井委員長	全ての取組に成果指標を設定するのは難しいと思いますが、目標値の設定根拠は各担当課でしっかり把握し、市民から問い合わせがあった際に説明できるようにしていただきたいと思います。 施策目標１について、２点伺います。１点目は、２７ページの「体験・交流型事業数」です。５年先までの予算が確定していない中で、事業数を目標として掲げてよいのか、気になります。

	２点目は、２６ページの放課後子ども教室です。主な取組が「充実・拡大」から「推進」に変わっていますが、後退した印象を受けます。本文には「充実・拡大を図ります」とあるため、表現の違いについて説明をお願いします。
事務局	放課後子ども教室の主な取組は、本文に合わせて「充実・拡大」に修正したいと考えています。 体験・交流型事業数については、予算の確保が必要となることも踏まえ、記載の仕方を持ち帰って検討します。
Ｈ委員	前回、成果指標を充実させてほしいと申し上げましたが、今回、追加していただき、ありがとうございます。全ての取組に指標を設定するのは難しいと思いますので、各施策の中で特に力を入れている取組や、挑戦する内容が伝わるよう、メリハリを付けてはどうでしょうか。 例えば、放課後子ども教室の実施校数は、西小学校以外は実施しているため、残る１校を増やす目標になります。一方、参加者数を２．５倍にすることは大変だと思います。目標値をどのように設定したのかも含め、重点が伝わる指標にしていただきたいと思います。
事務局	重点が伝わる成果指標について、改めて検討します。放課後子ども教室の令和１３年度の参加者数２５０人は、5校でそれぞれ５０人として設定しています。
増田（政史） 副委員長	成果指標にメリハリを付けることも大切ですが、それ以上に、保護者や一般の市民が理解できる、分かりやすい表現にすることが大切だと感じました。
事務局	成果指標の説明欄も含めて内容を見直し、一般の方にも分かりやすい表現に修正したいと考えています。
事務局	資料１に基づき、施策目標２学校教育の充実についてを説明した。
Ｈ委員	３２ページの「教職員の働き方改革の推進」に追加された「専門人材の活用」は、具体的にどのような人材を想定しているのでしょうか。 また、３５ページの「ふるさと意識の醸成」について、子どもたちが地域で自主的に活動する視点も加えてはどうでしょうか。南学区の育成会では、地域

	の祭りやイベント、防災訓練などで、希望する子どもたちにボランティアとして活動してもらっています。地域の方と顔見知りになる機会にもなり、地域からも評価されています。 　地域が学校や子どもたちを支えるだけでなく、子どもたちも地域のために活動することで、ふるさと意識が育まれると思います。子どもたちが地域の活動に参加できる機会や仕組みを検討していただきたいと思います。
事務局	専門人材については、現在、小学校の各校にスクールサポートスタッフを１人ずつ、週３日程度配置しています。今後は、中学校での活用についても考えています。 　ふるさと意識の醸成に向けて、子どもたちが地域の活動に参加できる機会は重要な視点だと考えますので、持ち帰って検討します。
石井委員長	主な取組に記載されている理科支援員や学校図書館支援員も、専門人材に含まれると思いますので、表記の仕方も整理していただきたいと思います。
W委員	第４章の施策は、第３期計画の振り返りで示した課題に対応するものだと思いますが、３点気になりました。 　１点目は、学校図書館や図書資料、ＩＣＴを活用した調べ学習などを通じて、読解力、思考力及び表現力を育むという課題に対し、３０ページの主な取組が「読書活動の推進」のみでよいのかという点です。 　２点目は、１２ページの課題に、体育授業を中心とした体力向上と、健康・食育に関する取組の充実が挙げられていますが、３１ページには新体力テストに関する記載はあるものの、健康・食育に関する取組が見当たらない点です。 　３点目は、地域クラブ活動の位置付けです。休日の地域移行に伴い、教職員の働き方改革から、家庭・地域・学校が一体となった子ども育成へ移したと理解しています。一方、１３ページの課題には、平日についても段階的に取組を進めるとあり、これは働き方改革にも関わると思います。地域とのつながりを重視する位置付けでよいとも思いますが、課題との対応が気になりました。
事務局	読書活動と健康・食育に関する取組については、課題との対応を確認し、適切な内容を記載したいと考えています。

	地域クラブ活動については、本市では休日の地域移行を実施しており、教職員の働き方改革にもつながっています。平日の地域移行についても、国や県から示されている内容を踏まえ、今後検討していく必要があると考えています。御意見も踏まえて考えていきたいと思います。
石井委員長	健康・食育に関する記載についても、検討をお願いします。
R委員	３６ページの「安全安心の確保」に「頻発する自然災害や感染症等」とあります。３１ページから感染症に関する記載を削除していることとの整合や、事件・事故などから子どもたちを守るという視点も踏まえ、表現を整理してはどうでしょうか。 学校図書館については、市立図書館との連携や整備・推進という表現にとどまると、学校間で取組に差が生じると思います。将来、学校の適正規模・適正配置が進んだ段階で図書の充実が実現するよう、学校図書館支援員や司書の活用なども含め、市としてどのように充実させていくか、今の段階から具体的に示していただきたいと思います。可能であれば、指標も検討してはどうでしょうか。 いじめ、不登校、長期欠席についても、数値を示すことは学校現場にとって難しい面がありますが、市としてどのように重点を置いて対応するのか、取組や解消率など、示せるものがあってもよいと思います。基本方針に基づいて対応するという記載だけで十分なのか、検討していただきたいと思います。 また、教職員の評価を基にした成果指標がいくつかありますが、評価する人によって判断が異なる面もあるため、できるだけ主観に左右されない指標で測れるとよいと思います。
事務局	安全安心に関する文言は、整合を図ります。学校図書館の充実については、具体的な取組や指標としてどのようなものを示せるか、検討します。 いじめ、不登校、長期欠席についても、解消率など、市として示せる指標を考えていきます。教職員の評価を基にした指標については、ほかにどのような指標が考えられるか、持ち帰って検討します。

石井委員長	「肯定的に評価した教職員の割合」という表現は、市民が見ると、肯定的に評価していない教職員がいると受け取られる可能性もあります。内部で用いる場合とは異なり、市民がホームページなどで見る計画ですので、表記には十分配慮し、検討していただきたいと思います。
Ｋ委員	３５ページの「ふるさと意識の醸成」の主な取組について、文言の整理をお願いします。「白岡歴史・史跡研修会」は、「白岡の歴史・史跡研修会」ではないでしょうか。 また、追加された「白岡に関わりのある給食の提供」は、内容が分かりにくい表現です。本文には地域食材などとありますので、もう少し分かりやすい言葉に工夫していただきたいと思います。
Ｎ委員	成果指標は、保護者の立場で読んでも分かりにくいものがありました。説明を読めば理解できますが、指標名も、より分かりやすい言葉にしていただきたいと思います。 また、学校の適正規模・適正配置に関連して、通学区域について伺います。私の住んでいる地域では、小学校は篠津小学校、中学校は白岡中学校が指定校でした。子どもが小学校に入ってからそのことを知り、友人と別の中学校に進むことに驚きました。部活動や友人関係を理由に指定校変更の申請をしましたが、当時は、中学校進学前と進学後に、それぞれ申請が必要だと説明を受けました。 繰り返し申請することは保護者の負担になります。現在はどのような取扱いになっているのでしょうか。子どもたちが安心して学校生活を送れるよう、通学区域や手続についても整理した上で、計画を進めていただきたいと思います。
事務局	篠津小学校の一部には、進学先の中学校が分かれる区域があります。白岡中学校が指定校であっても、友人関係や部活動を理由に篠津中学校を選択する実態もあります。 適正規模・適正配置等計画を進める中で、通学区域の見直しは慎重な判断が必要だと考えています。審議会でも、区域が重なる地区では、どちらの学校にも進学できるよう、柔軟な対応を検討してはどうかという意見をいただいてい

	ます。現在の実態や様々な意見を踏まえて慎重に検討し、小中一貫教育の推進にも結び付けていきたいと考えています。
Ｄ委員	３６ページの学校図書館と市立図書館の連携について、必要な資料が学校にない場合、市立図書館から借りる取組は現在も行っています。ただ、学校に発行されている団体貸出用のカードについて、教職員の異動などにより、保管場所が分からない場合があります。 私が資料を借りる際には、これまでの利用実績などから対応していただくこともありますが、指定管理者への移行後も同じように対応できるのか、気になります。この機会に、カードの有無や再発行、学校での管理者などを整理し、必要な本を円滑に借りられるよう、連携の仕組みを確認していただきたいと思います。
事務局	図書館からは、校長会で学校向けの団体貸出を案内しています。授業の単元や修学旅行など、必要なテーマをお知らせいただければ、図書館で資料を用意して配送する運用を行っており、必ずしもカードの提示が必要ということではありません。 各学校のカードの管理状況は把握していませんが、指定管理者への移行によって必要な資料を提供できなくなることがないよう、指定管理者や学校と調整し、必要な本を提供できるよう努めます。
Ｒ委員	図書に関する取組では、本のＰＯＰや帯を作る事業がとても良いと思います。大きな予算を掛けずに取り組める面もあり、本を読まなければ作れず、子どもたちの優れた作品も生まれています。応募者数などを学校ごとの指標にすると強制につながる懸念はありますが、良い取組は継続し、広く伝えていただきたいと思います。 作品はこもれびに展示され、学校に戻った後も展示・活用されています。事業名を挙げなくても、図書に関わる事業の拡大などとして、３６ページの主な取組にも位置付けてはどうでしょうか。各項目について、既に行っている良い取組や継続できる取組が伝わるよう、文言を精査していただきたいと思います。

事務局	学校で取り組んでいただいている良い活動ですので、学校と図書館の連携や子どもたちの取組として、計画に位置付けられるよう検討します。
増田（政史）副委員長	３９ページの「外国人の児童生徒と帰国児童生徒への支援」は、第３期計画と同じ内容ですが、地域では外国人が増えており、今後も増加するのではないかと感じています。語学、生活習慣、マナー、白岡の歴史なども含め、市として支援体制を強化していただきたいと思います。 ４３ページの生涯学習センターの入館者数は、これまでおおむね２５万人から２７、２８万人程度で推移しているのに対し、令和１３年度は３５万人という大きな目標です。人口や子どもの数が増えない中での設定が気になりますが、数字のことよりも、せっかくの施設を活用していただきたいという趣旨です。指定管理者制度も生かし、外国人の子どもたちも白岡の歴史や文化を学び、理解を深められるよう取り組んでいただきたいと思います。
事務局	生涯学習センターの図書館では、英語以外も含め、外国の子ども向けの本を取りそろえており、外国人の方の利用も見られます。指定管理者が各地で培ったノウハウを生かし、国籍を問わず、皆さんに学んでいただけるよう取り組んでいきたいと考えています。
石井委員長	施策目標２について、２点申し上げます。１点目は、主な取組の再掲についてです。一つの取組が複数の方向性に関わることはあると思います。例えば、３０ページの「命を大切にする教育の推進」と３１ページの「いじめ防止対策の推進」には、いずれも「いじめ防止基本方針の推進」が記載されています。このように、関連する箇所にも再掲してはどうでしょうか。 ２点目は、３１ページの「ヤングケアラー問題」という表現です。ヤングケアラーそのものが問題なのではなく、実態や必要な支援への理解が進んでいないことなどが課題だと思います。「問題」を付ける表現が適切か、検討してください。 また、この箇所は教育相談体制の充実について記載しており、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーへの相談は、いじめや不登校など、

	様々な悩みに対応するものです。ヤングケアラーだけを特に取り出して記載する必要があるかについても、検討をお願いします。
事務局	資料１に基づき、施策目標３社会教育の充実について説明した。
Ｋ委員	社会教育について、３点お願いします。１点目は、「市民の学習の成果活用」を「市民の学習成果の活用」などに整理してください。他の箇所との用語の統一もお願いします。 ２点目は、４１ページの「学びについての情報発信」です。本文では情報提供を推進するとありますので、主な取組も「生涯学習情報の提供の推進」としていただきたいと思います。これまで関心がなかった方に、新たに関心を持ってもらうためにも、情報提供は大切です。 ３点目は、４４ページの人権教育に関する啓発活動です。「人権ふれあいコンサートの開催」を削除し、「人権作文の発表」としていますが、従来のコンサートを取りやめるのであれば、取組が縮小した印象を受けます。啓発活動を推進・充実するという趣旨と整合するのでしょうか。
事務局	１点目と２点目の文言は修正します。 人権ふれあいコンサートについては、事業を見直し、人権作文発表会に再編するものです。コンサートに代わるイベントを作文発表会に併せて実施することを考えています。
Ｒ委員	取組を再掲できるのであれば、図書館機能の充実に本のＰＯＰや帯を作る事業を位置付けたり、学校教育の豊かな心の育成に、人権作文や人権標語の取組を記載したりしてはどうでしょうか。それぞれの施策を別々に考えるのではなく、関連する取組を整理し、連携して進めることが伝わるとよいと思います。
Ｎ委員	１０月から図書館に指定管理者制度が導入されますが、子ども読書活動推進計画も本計画に包含され、図書館が担う取組が多く示されています。指定管理者が、これらの内容を理解し、実施していけるのかが気になります。 他自治体には図書館協議会があり、毎年度の活動や市の計画への対応について、市民の立場から運営に意見を述べる場になっていると聞いています。白

	岡市でも、このような開かれた場で、図書館の運営を市民が見守り、協議できる仕組みがあるとよいのではないでしょうか。
事務局	指定管理者は、市の施策に沿って運営することが前提です。新しい教育振興基本計画ができた後は、当然、その計画に基づいて運営していただきます。計画から逸脱する運営があれば、市が是正を求め、必要に応じて指定停止等の対応を取れるようにしています。 白岡市には図書館協議会はありませんが、生涯学習センターは、図書館、博物館、生涯学習の三つの機能を持つため、毎年度、社会教育委員の会議に運営状況を報告し、意見をいただいています。委員には、図書館ボランティアやスポーツ少年団、子ども会などの代表の方にも参加していただいています。指定管理者による運営についても、社会教育委員の会議などで報告し、意見をいただく形を考えています。
R委員	４５ページの施策項目「市民の力で守り伝える活動の推進」に、４６ページの「文化財に関する防災・防犯活動」が位置付けられています。必要な取組だとは思いますが、警察や消防との情報交換は行政の役割であり、「市民の力で守り伝える」という見出しとの関係が分かりにくいと感じます。地域との協力を示すなど、記載の仕方を検討してはどうでしょうか。
事務局	施策項目は、文化財や歴史文化を市民の力で守り伝えるという大きな見出しとして設定しています。その中で、市として必要な防災・防犯活動を記載しています。 実際には、警察や消防だけでなく、地域の防災組織の方々とも連携し、防災訓練などを行っています。そのことが伝わるよう、書き方を検討します。
R委員	地域の防災組織と協力するといった一言があるだけでも、地域で守っていくという趣旨が伝わると思いますので、検討をお願いします。
H委員	３５ページの「ふるさと意識の醸成」には「白岡の歴史・史跡研修会」がありますが、社会教育の「市民の力で守り伝える活動の推進」には記載がありません。子どもたちに地域の歴史や文化を知ってもらう取組として、両方に位置付けてもよいと思います。

	教育指導課と生涯学習課など、関係する課が連携して考えられる構成にしていただきたいと思います。また、「市民」には子どもたちも含まれますので、社会教育の中にも地域の子どもたちの視点を加えていただきたいと思います。
事務局	資料１に基づき、第５章について説明した。
委員一同	質疑なし。
	（２）第４期白岡市教育振興基本計画の今後の策定スケジュールについて
事務局	資料２に基づき、１１月中旬に第４回策定委員会を開催し、その後のパブリックコメントを経て、令和９年２月頃に第５回策定委員会で最終的な計画案を審議し、同年３月に計画を策定する予定である旨を説明した。
Ｋ委員	前回は欠席したため、次回はぜひ出席したいと考えています。次回の策定委員会は１１月中旬とのことですが、いつ頃を予定しているのでしょうか。予定を確保するため、教えてください。
事務局	学校の都合なども踏まえ、皆様の予定を確認しながら、改めて調整します。
石井委員長	委員の皆様の予定もありますので、早めの日程調整をお願いします。
Ｈ委員	今回の資料は、変更前の内容に見え消し線を引き、修正箇所を赤字で示していますが、削除された部分が目に入り、文脈が分かりにくいことがあります。変更点を別紙で示していただくことはありがたいのですが、次回の資料は、修正を反映した形になるのでしょうか。それとも、引き続き見え消し線などを付ける予定でしょうか。
事務局	次回の計画案も、修正点が分かりやすいよう、今回と同様の表記を考えています。ただ、今回の資料でも、表記によって内容が分かりにくくなる部分がありましたので、よく見直してお示ししたいと考えています。
Ｈ委員	動画配信の記載を削除した箇所も、削除部分があるため、実施しなくなるように受け取られますが、修正後の文章だけを読むと、動画配信も含まれていると理解できます。最終的に市民が読む文章の流れを確認できるよう、修正を反映した資料と変更点の一覧を併せて示していただけると、読みやすいと思います。

事務局	御意見を踏まえ、資料の示し方を検討します。
石井委員長	今後の策定スケジュールは、説明のとおり進めたいと思います。本日いただいた御意見は、事務局でよく検討し、修正できるものは修正してください。修正が難しいものについても、その理由を説明できるようにしていただきたいと思います。
	４　その他
事務局	事務局からの報告事項はない旨を伝えた。
	５　閉会
事務局	第３回第４期白岡市教育振興基本計画策定委員会の閉会を宣言した。